

2023年度第4回NPO法人共同保存図書館・多摩理事会

1 日 時：2023年8月7日（月） 午後8時00分から午後9時20分

2 方 法：ZOOMアプリを媒介にしての遠隔会議

3 議決権のある理事：9名

出席者：座間直壯、雨谷逸枝、清田義昭、小池信彦、齊藤誠一、田中ヒロ、中川恭一、堀 渡

欠席者：保坂一房

事務局員の参加者：なし

(1) 第1号議案 会員の動向について【報告】

・2023年8月7日（本日）現在

正会員：個人80名 2団体 賛助会員：個人28名 2団体 計：個人108名 4団体
（合計112名・団体） （賛助会員1名 死亡退会）

(2) 第2号議案 第41回多摩デポ講座「都立中央図書館の書庫、資料保全室の見学と、保存方針・保存計画の話聞く」について【報告・討議】

- ・8月10日（木）午後2時～4時に、図書館が指定する定員の12名一杯で、施設見学と事業説明をしてほしいと要望し、都立中央図書館に受け入れられている。
- ・「都立中央図書館の改修後の閉架書庫の様子と資料保全室で行っている作業を見学し、あわせて都立図書館の資料保存全体の概要、方針、実態、と今後の保存計画等を説明してほしい。特に都内区市町村の図書館と資料保存で連携を図ること、共同保存することは検討していないのか教えてほしい」このような要望を出した。
- ・見学参加者は、会員にはMLでの案内と『多摩デポ通信』の記事、チラシ配布、多摩地域の図書館へは、『通信』とチラシの配布により募集した。会員および図書館職員から8人の応募があった。応募された方には全員行ってもらうことにした。多摩地域の職員では、立川市、国立市、調布市の方から応募があった。理事・事務局から4人が行くことになった。
- ・募集期間が短く、多摩地域から都立中央図書館は遠方であることもあり、反応はあまり多くなかった。受入れられる人数が少ないので、応募者が多くなって調整するのが課題かと予想していたが、そうはならなかった。参加者名簿は都立図書館に提出済み（後での差し替えはかまわないとのこと）。
- ・説明してほしいことを詳しく書くよう求められ、別紙のように記入して送ってある。
- ・今回、都立中央図書館から受ける説明は、今後の多摩デポの活動に大いに参考になると思われる。聞いてきた方がいいこと、質問した方がいいことなどを議論した。

(3) 第3号議案 第1回多摩地域ライブラリアン講座の準備状況について【報告・討議】

- ・7月31日の締切を過ぎたが、受講者12人の募集に対し応募は4人とどまった。
- ・一方、依頼期間が短かったにも関わらず、講師の大半の方からは既に録画コンテンツを作って送っていただけている。なお、予定していた保坂理事による地域資料論が体調不良で出来なくなり、急遽、プログラムを結城智里氏（機械振興協会経済研究所）の専門図書館論に変更した。
- ・応募者が少なかったことへの対応として、募集期間を8月31日まで延長し受講者の追加を図ることになった。このことによって、講座開始日と講座全体の日程が当初予定からずれる。9月8日に受講開始で、オンライン講習日は1月後半になる。現在の応募者と講師の方には、そのことをメールで説明して了解を求めている。
- ・日程変更後のチラシと企画書は別紙のようになる。
- ・変更後のチラシと企画書をHPに掲載し、多摩の図書館へは、FAX送付（各自治体の中心館宛）、および郵送（分館分の枚数も加えて、中心館へ）し、再度の職員回覧を依頼した。何より、応募者の発掘が課題である。
- ・企画、プログラム、日程進行その他、次回の実施時には見直しした方がいい点があるかもしれないが、それが分かるためにも、この募集期間の延長によって第1回の講座が当初通りの企画で実施できるよう、応募者の積み上げを図りたい。
- ・上記の内容を講座検討会から説明し、理事会として了承した。

(4) 第4号議案 今年度下半期の事業の展望について【報告・討議】

- ・府中市立図書館の蔵書目録のISBN未記載データへの機械的推定と検証作業について
 - ・1983年からの10年間で発行された図書の同市立図書館の所蔵目録データでISBNが未記載のものに、今からISBNを推定できないかという研究作業を（株）カーリルと共同して行っている。
 - ・ISBN未記載の同市の目録データを受け取り、まず（株）カーリルが書誌のビッグデータからISBNを機械的に推定した。ISBNの付与が推定された目録データを多摩デポの理事、事務局員で一件一件検証してきた。
 - ・同館には、最初に調べるよう依頼されていた地域資料の推定の結果を6月30日にお渡しして説明してきた。同館からは、結果を自館でも確認の上、図書館の目録データにISBNを付加していきたい。次は児童書の目録データの推定作業を進めてほしいと言われた。
 - ・児童書の目録データは、7月から（株）カーリルが機械的な推定を始めている。多摩デポが作業するのは、（株）カーリルから推定結果が届いてからだが、作業準備をしておかなければならない。地域資料での経験を踏まえ、作業マニュアルを整え、今度は多摩デポ会員等のボランティアを募って進める予定である。
 - ・そのためもあり、『多摩デポ通信』第64号で、この事業の意義、行ってきた作業内

容を詳しく紹介した。ボランティア募集の予告もした。

- ・(株)カーリルとの研究会がこの間延期されているが、8月、9月にもこの作業が始まる予定である。

(前回の理事会の時から、作業はまだ進んでいない)

- ・2023年度多摩地域公立図書館大会での講演について
 - ・館長会の図書館サービス研究会が担当する分科会に、(株)カーリルの吉本氏と中川理事が講師として登壇し、会場に集まる図書館員や市民を前に、多摩デポ一括処理システムの実演・紹介を行うことが決まった。2024年2月7日(水)の午後2時から午後4時。会場は東村山市立中央公民館となる。
- ・その他
 - ・それ以外の下半期の事業は、まだ企画が絞れていない。多摩デポ講座および多摩デポ実践講座の次の企画、全国の県域での共同保存の実態調査、館長会との連携、東京都立図書館への保存問題での申し入れの件などが、次の課題になる。
 - 理事会では、まもなく下半期が始まるので間を空けずに具体化できるよう事務局で検討を進めてほしい旨が話された。

(5) 第5号議案 津野海太郎氏への顧問委嘱について【報告・討議】

- ・2023年度通常総会で、2年任期の理事(新任、再任)を選ぶことができた。については今期の理事会としても、前期までに続いて、津野海太郎氏に多摩デポの顧問を委嘱することが諮られた。
- ・津野氏に引き続き、顧問をお願いすることには全員賛成。そのためには津野氏に登場してもらおう事業を具体的に用意することが必要ではないか。
 - 津野氏に顧問委嘱を依頼すること、あわせて具体的に出ていただける企画をご相談することが確認された。

(6) 情報交換その他

- ・里親探し事業について
 - ・今年度2回目の里親探しが多摩市立図書館から依頼があり、募集FAXを出した。『万有百科大事典』(ジャンルジャポニカ、全21巻、小学館、1970年代)全巻揃いの提供の申し出だった。全巻一括の受取希望はなかったが、自館蔵書の欠本補充に使いたいとして3市が応募してきた。申込みが重複した巻があり、2市に提供できることになった。(結果は双方に連絡済み、引き取りや配達はこれから)
- ・東京都公文書館見学会(第40回そのII)について
 - ・3月に「第40回多摩デポ講座」として実施した時、定員オーバーで行けなかった希望者のために、7月14日(金)に再度、見学会を実施した。会員MLでだけ追加募集の案内を出した。体調不良による直前の欠席者もあり、参加は9人だった。

・「多摩デポ通信」第64号の発行について

- ・総会記念講演会の報告・感想、府中市の蔵書目録の ISBN 未記載データへの付与の推定の研究と作業の報告、第41回多摩デポ講座（都立中央図書館の書庫見学等）の参加者募集案内、第1回多摩地域ライブラリアン講座の企画の紹介と募集案内、里親探し事業の結果、「多摩デポブックレット第16号」の書評等を掲載し、12ページの紙面となった。
- ・記念講演会の報告や府中市の研究・作業報告などについては、詳しい内容の記事を載せたが、どう読まれたか反応はまだ特になし。

【多摩デポ関係記事】

- ・特になし

【共同保存図書館関連論文】

- ・特になし

【今後の予定】

- ★ カーリルとの共同研究 定例会 日程未定、(Zoom 会議)
- ★ 事務局会議(2023 年度第7回) 2023 年 8 月 30 日 (水) 午後 8 時より、(Zoom 会議)
- ★ 次回理事会(2023 年度第5回) 2023 年 10 月 10 日 (火) 午後 8 時より、(Zoom 会議)

5 議事録署名人の選任

議事録署名人として2名を選任することを諮り、清田義昭理事、田中ヒロ理事を選任することを全員異議なく承認した。

以上、この議事録が正確であることを証します。

2023 年 8 月 7 日

議長

議事録署名人

議事録署名人